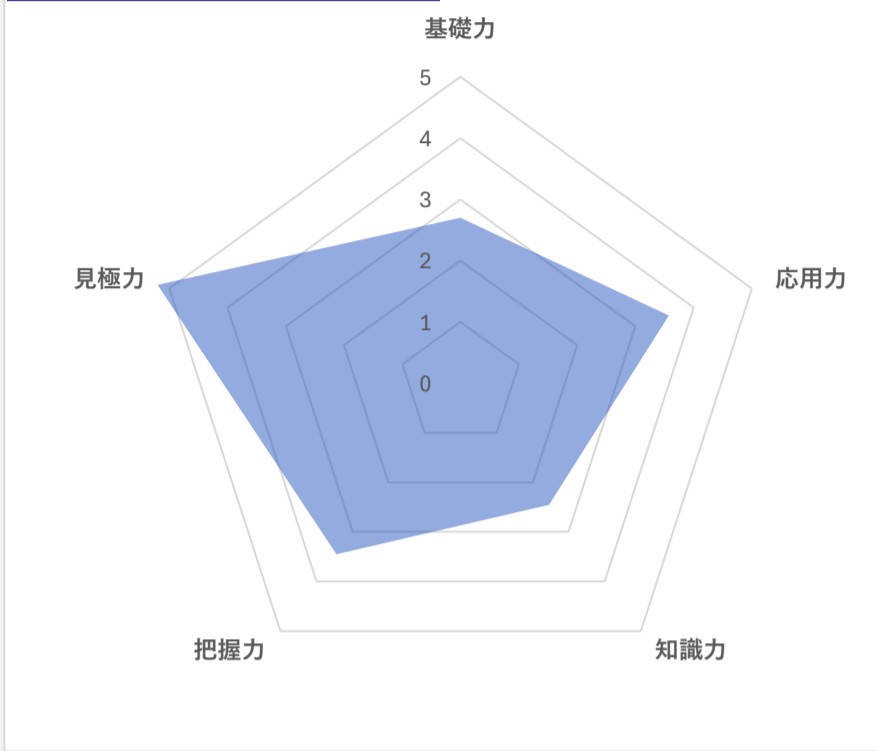


総合分析

試験区分	一般 (前期)
------	---------

制限時間	60分 (理科 2科120分)	大問数	全 4 問
------	-----------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)

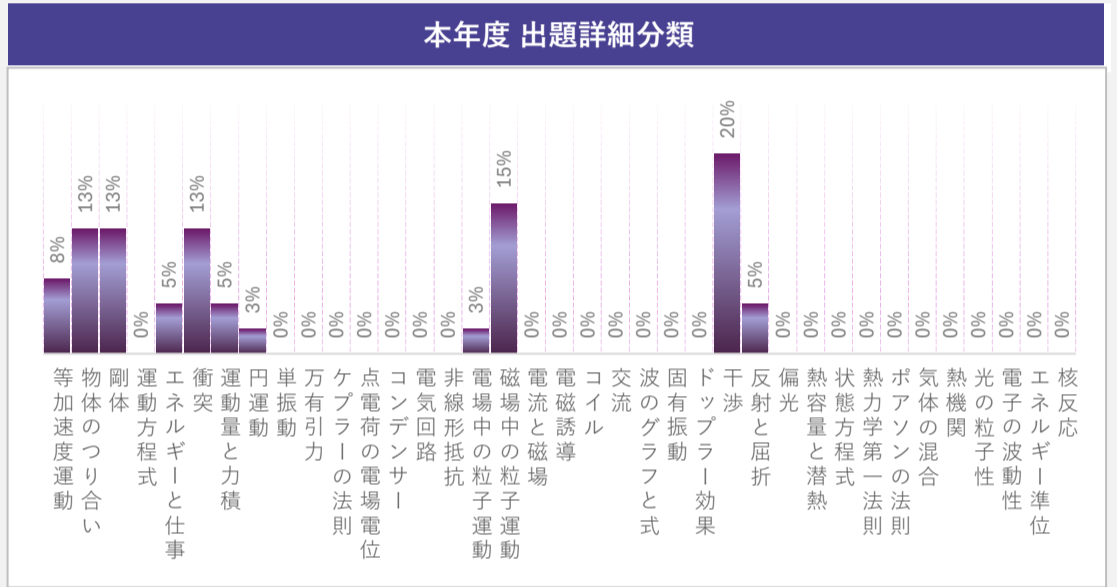


合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	2.5	原理についての理解
応用力	3.4	演習経験による慣れ
知識力	2.3	用語を正確に覚えているか
把握力	3.3	臨機応変に状況を把握する力
見極力	5.0	解きやすい問題を選択する力

出題分野	
力学	58%
電磁気学	18%
波動	25%
熱力学	0%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	剛体のつり合い
第 2 問	ニュートン環
第 3 問	質量分析器
第 4 問	自由落下させた2物体の連続衝突

本年度 解答形式
答えのみ記述 100%



特殊問題の有無	近似計算あり	グラフあり
正誤問題なし	理由記述あり	数値計算あり

特記事項 特になし

総合評価

難度	3.3	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	64%
分量	90分	完答に要する時間 (制限時間は60分)	多い	標準	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

入試から見る 大学が求める学生像

題材としては典型的な問題ばかりだが、多くの大問において最後の数小問は得点しにくい。難しいというよりは、意図の読み取りにくさ・計算の煩雑さによって混乱するといった印象である。分量も多いため比較的解きやすい6割強を確実に得点することで十分に合格圏内に達するだろう。総じて解きやすい問題を見抜く力を持ち、標準的な学習がしっかりできている学生が求められている。